

# 読書活動支援者育成事業研修会



令和5年6月20日（火）郡山市労働福祉会館大ホール 参加者 53名

## 実践発表 「子どもの創造力を培い、豊かな心を育む読書センターとしての学校図書館」 郡山市立湖南小中学校 学校司書 古川里美 氏

- 前期課程を中心に子どもたちが季節に合わせて身の回りの自然に興味や関心を持つことができるようにしている。
- SDGs について考えるコーナーを設置し、テーマに沿った多数の本を準備して SDGs の理解に向けた探究的な読書活動を推進している。
- 「読書の手引き」を作成し、図書貸し出し数30冊や50冊でウキウキ賞やワクワク賞を設定し、児童の読書意欲を喚起している。



### 参加者の声

- 湖南の自然、季節に合わせた展示やコーナー作りなど図書館内での掲示の工夫が勉強になりました。子どもたちに興味や関心を持ってもらうには大切なことだと感じました。
- 行ってみたくなる図書館、読んでみたくなる本、そんな気持ちに子どもたちになる読書センターとしての学校図書館づくりはとても勉強になりました。
- 常に子どもたちの目線で興味・関心を持たせる工夫がたくさんあり素晴らしいと思いました。

## 講話 「震災を経験して～自分の命は自分で守る～」

相馬市観光協会 遠藤 美貴子 氏  
震災語り部 五十嵐ひで子 氏

- 相馬市復興視察案内や教育旅行の受入業務等を行い、震災記憶の風化防止と教訓の継承に尽力している
- 震災語り部として、自分自身が被災・体験したことを踏まえ「自分の命は自分で守る」ことを伝えてきた。
- 自ら被災した体験を語り続けることが亡くなった方々への供養になると思い精一杯活動している。

### 参加者の声

- 震災の記憶を風化させないよう語り継ぐこと。自分の命は自分で守ること。命の大切さを改めて考えることができました。
- 東日本大震災から10年以上をたった現在でも相馬市では様々な問題と向き合い取組を行っていることを再認識しました。被災され自ら体験された五十嵐さんの御言葉はとても心に響きました。



## 講義・演習「絵本よみきかせのコツ講座～『自分らしさで届けよう！』 笑顔あふれる絵本のよみきかせ～」

(一社) JAPAN絵本よみきかせ協会認定

絵本よみきかせセラピスト® 山田 昭彦 氏

- 読み聞かせの正しい技術や技法を習得することは大事なことだが、自分自身が持っておきたいのは「心のやじるし」である。このやじるしが、今どこを向いているのか。それが大切である。
- グループでお互いの読み聞かせを行い、お互いの「良さ」を見いだすことで「自分の良さ、自分の才能を見つけること」が重要である。
- 「読み手も笑顔あふれるように！」「声は人なり、語りは人生！」である。

### 参加者の声

- 「みんなで良さを認め合うこと」を大切にする演習だったので良いグループ活動になりました。
- 「だめだし」ではなく、「ほめだしをする」というすてきな言葉を大切にします。参加させていただき、ちょっぴり自分に自信が持てました。
- 読み聞かせにあまり自信がなかったのですが、読み聞かせをがんばる勇気をもらいました。
- 楽しい研修でした。読み聞かせをして自分の読み方をほめられること、他の方の良いところをほめることなど、うれしいことだし自信になります。認め会えることはとても素晴らしいことです。



### 【研修会全体を通して】

### 参加者の声

- 他の団体の方との交流でいろいろな取組を知ることができとても参考になりました。志が高い方の多さに驚きました。
- どの講座もためになりました。またこのような機会があれば参加したいです。
- 読み聞かせ未経験の私ですが、とても感動しました。いつか子どもたちに読み聞かせを行ってみたいです。今後も機会があれば参加したいです。
- 読み聞かせボランティアとしての活動をどう継続させたらいいのかという課題があります。自分のできることと、地域のニーズをどうすり合わせできるのか、時代の変化が悩ましいです。情報交換の時間とても有意義な時間となりました。

